

## 2-(1) 法人本部／東京国際大学

### I. 平成27年度事業の概要

東京国際大学は平成 27 年度に創立 50 周年を迎えた。建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」、建学時からの教育目標である「Vision, Courage, Intelligence を身に付けた人材づくり」を具現化するために、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を柱とした教育事業展開を強力に推進している。

「スポーツの東京国際大学」に関しては、最高レベルの施設環境のもと、世界レベルの指導陣により展開される強化クラブ事業を中核に据えている。アスリート学生の学業面の支援体制は、人間社会学部のスポーツ 2 学科が中心的役割を担いつつ、全ての学部で受入を行っている。平成 27 年 5 月時点のスポーツ系クラブ所属学生数は 1,193 名、全学部所属学生の 19%にのぼった。

「英語力の東京国際大学」に関しては、大学の更なるグローバル化を目指し各種施策を展開している。平成 26 年度にスタートした英語による学士課程コース「イングリッシュ・トラック・プログラム (E トラック)」には、開設後 2 年間で世界 47 ヶ国から 204 人の学生が入学、キャンパスのグローバル化に大きく貢献している。英語ネイティブ教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) は、36 人体制に規模を拡大し、姉妹校ウィラメット大学におけるアメリカン・スタディーズ・プログラム (ASP) 留学プログラムとの連動等、英語教育指導体制の強化に取り組んでいる。ハーバード大学アジアセンターとの共催シンポジウムは第 4 回目の開催となった。

大学キャンパスの枠を超えた教育プログラムの開発・強化に積極的に取り組んでいる。JTB 総合研究所との産学連携事業「観光立国プログラム」では、実務家による講座開設とともに、観光事業の現場でのインターンシップも導入し体験型学修を推進している。文部科学省「地 (知) の拠点整備事業 (COC)」に採択された「小江戸 (川越) まちおこし」事業においても、学生が積極的に地域に進出する活動に取り組んでいる。

学長を中心とした教学ガバナンス態勢強化の観点から、全学的視野に立った教学改革・事業展開に向け学長を支援する各種委員会を立ち上げた。5 名の副学長を中核メンバーとする全学人事委員会、カリキュラム編成委員会、就学管理委員会、グローバル化推進委員会、FD 委員会、CD 委員会が設置され、それぞれ学部横断的・全学的見地に立って、教員人事、カリキュラム編成、学生の入学・卒業、グローバル化企画、FD、キャリア教育等につき学長業務遂行をサポートしている。

カリキュラム編成委員会においては、国際標準に適合した教育体系構築に向け、抜本的なカリキュラム再編成、完全セメスター制 (一部クォーター制併用)、GPA 体系の国際標準化及び厳格適用、キャップ制厳格化、ナンバリング体系の整備等を意見具申し、理事会

の承認を経て平成 28 年度より実施することを決定した。

## II. 事業項目

### 1. 教育内容の充実

#### (1) 「スポーツの東京国際大学」の推進

実施事項：	強化クラブ及び人間社会学部スポーツ2学科を軸としたスポーツ振興。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本学強化スポーツクラブは、最高水準の指導者、最高水準の施設環境のもと、学生競技における最高レベルの成果達成を追求し、そのなかで学生の全人格的成長を促す。</li> <li>● 硬式野球部（山中潔監督、古葉竹識名誉監督）、女子ソフトボール部（宇津木妙子総監督、三科真澄監督）、サッカー部（前田秀樹監督）、女子サッカー部（大竹七未総監督、持田紀与美監督）、チアリーディング部（内川薫監督）、駅伝部（横溝三郎総監督、大志田秀次監督）、ゴルフ部（湯原信光監督、ラリー・ネルソン名誉監督）、硬式庭球部（佐藤直子監督）、アメリカンフットボール部（村上崇就ヘッドコーチ）、ウエイトリフティング部（三宅義信監督）、剣道部（出水盛文師範）を強化スポーツクラブに指定。</li> <li>● 17万㎡（東京ドーム4個分）の坂戸キャンパス総合グラウンドはプロ仕様の施設を完備している。</li> <li>● 強化クラブ拡充に呼応して、アスリート学生の学業面での専門性向上を図るため、人間社会学部に人間スポーツ学科、スポーツ科学科を相次いで開設し、いずれも多数の志願者を集めている。</li> </ul>

#### (2) 「英語力の東京国際大学」の実践

##### ① イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）開設

実施事項：	英語での学生募集・学位取得が可能な「イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）」を経済学部及び国際関係学部横断で設置、世界各国から留学生を受入れキャンパスのグローバル化を推進。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経済学部及び国際関係学部横断で英語学位プログラムを設置、「Business Economics Major」及び</li> </ul>

	<p>「International Relations Major」の二専攻で学生を募集している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 春・秋二回の入学受入を行う態勢とし、設置後2年間で47カ国から204人が入学した。</li> <li>● 初年次英語教育に関しては、GTIが所管する。専門科目、教養科目分野では、外国籍教員を含め人員を増強している。</li> <li>● Eトラック・プログラム推進のため、外国人職員の採用等事務局体制の強化にも取り組んでいる、</li> <li>● ベトナム及びインドネシアに現地事務所を開設し、学生募集に取り組んでいる。</li> </ul>
--	---

## ② 国際学生寮増強

実施事項：	第2キャンパス内の国際学生寮（R1）に続き、R2、R3も稼働開始、収容能力150人強を確保。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Eトラック学生を受け入れるための国際学生寮は、R1（収容人員75人）、R2（＼70人）、R3（＼14人）を稼働させている。</li> <li>● 留学生の生活支援のため、日本人学生等によるレジデント・アシスタント（RA）制度を導入した。RA学生の英語力・コミュニケーション能力向上も企図している。</li> </ul>

## ③ グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）事業展開拡充

実施事項：	英語ネイティブ教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）による英語教育強化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● GTI所属の英語ネイティブ教員（グローバル・ティーチング・フェロー、GTF）の陣容を拡充、36名体制となった。</li> <li>● 平成27年12月から学長直轄組織化、活動対象は言語コミュニケーション学部に限らず、Eトラック、国際関係学部、経済学部の英語教育も担当している。</li> <li>● 60分週3回、1クラス10人以下の米国型語学教育を導入し、英語スキルの向上に取り組んでいる。</li> <li>● 第1キャンパス内に英語専用ラウンジEnglish PLAZAを設置、GTFを常駐させ、授業時間以外でも英語力鍛錬可能な環境を整備している。</li> </ul>

④ ジャパニーズ・ラングエージ・インスティテュート (JLI) の組成

実施事項：	Eトラック学生の日本語スキル向上のため、日本語教育組織 ジャパニーズ・ラングエージ・インスティテュート (JLI) を設置。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Eトラック学生の日本語スキル向上のため、日本語教育組織 ジャパニーズ・ラングエージ・インスティテュート (JLI) を設置した。</li> <li>● JLIは、Eトラック及びジャパン・スタディーズ・プログラム (JSP) 在籍学生の日本語教育を専担する。</li> </ul>

⑤ アメリカン・スタディーズ・プログラムの充実

実施事項：	アメリカン・スタディーズ・プログラムが日本学生支援機構 (JASSO) 海外留学支援制度に採択されたことを受け、留学準備プログラム (ASP Prep) 等、学修成果強化策導入。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 創学以来の姉妹校ウィラメット大学 (米国オレゴン州) にて開講されるアメリカン・スタディーズ・プログラム (ASP) には、毎年100名を超える学生が参加し、約1年間の留学を経験している。GTIにおける教育とも連動させ、本学グローバル化教育の柱となっている。</li> <li>● 2016年プログラムは、JASSOより70名の奨学金支給枠 (月額8万円) の対象として採択された。</li> <li>● 留学による学修成果を強化するため、事前準備プログラムASP Prepを導入、留学目的の明確化、留学中の目標設定等を行った。</li> </ul>

⑥ ハーバード大学アジアセンター共催シンポジウムの定例化

実施事項：	本学とハーバード大学アジアセンターの交流プログラムを継続。第4回共催シンポジウム「日本と世界」を開催。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高村正彦衆議院議員、ハーバード大学ジョセフ・ナイ教授、外交評論家・MIT国際研究センター シニアフェロー岡本行夫氏による講演・パネルディスカッションを実施。安全保障に関連した諸問題について活発な議論が交わされた。</li> </ul>

(3) キャンパスの枠を超えた教育プログラムの展開

① 文部科学省「地 (知) の拠点整備事業 (COC)」

実施事項：	「小江戸かわごえ」グローバル人財育成による「まちおこし」プログラム。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本学のプログラムが文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択され、全学的に取り組んでいる。</li> <li>● 地域でのフィールドワークやインターンシップ等、多様な体験型学修を組み込んでいる。</li> </ul>

## ② 国際関係学部「観光立国プログラム」

実施事項：	JTB総合研究所との産学連携による、「観光立国プログラム」の拡充。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● JTB総合研究所の実務家を招き、観光に関する実践的教育コンテンツを整備した。</li> <li>● MICE産業論や、JTBグループと連携したインターンシップ等、先端的・実践的プログラムも設置し、「観光立国」を担う人材の育成に取り組む。</li> </ul>

## ③ 言語コミュニケーション学部「スタディー・ツアー」

実施事項：	言語コミュニケーション学部において、米国及び台湾でのスタディー・ツアーを必修化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語コミュニケーション学科においては初年次で、中国言語文化学科では二年次で、原則全員参加のスタディー・ツアーを実施している。</li> </ul>

## 2. 就職支援体制の強化

### (1) 就職支援体制の充実化

実施事項：	就職先マッチング態勢の強化、スポーツ系クラブ学生へのサポート、Eトラック学生への就職支援体制整備。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 就職先マッチングを専門に行うカウンセラーを配置した。</li> <li>● 体育会学生に対しては、スポーツ関連企業等その特長を活かした進路を選択し、専門のカウンセラーがサポートする体制を敷いている。</li> <li>● Eトラック学生に対しては、二年次から就職ガイダンスを実施、日本企業への就職にむけた心構えを植えつけ</li> </ul>

	ていく。また、日本企業へのインターンシップ・プログラムも導入している。
--	-------------------------------------

(2) 公務員試験対策講座

実施事項：	正規授業時間内での受講、単位認定される公務員試験対策講座の設置。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門の教育機関と連携し、公務員対策講座を商学部、経済学部及び言語コミュニケーション学部中国言語学科にて開設した。</li> <li>● 1年生からの積重ねで学習を行うプログラムが組み立てられており、効果的な公務員試験準備が可能となる。</li> <li>● 一般企業就職対策としても有効なプログラムである。</li> </ul>

(3) 社会福祉士、精神保健福祉士国家試験対策講座

実施事項：	正規授業時間内での受講、単位認定される国家資格試験対策講座の設置。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門の教育機関と連携し、社会福祉士及び精神保健福祉士試験対策講座を人間社会学部福祉心理学科にて開設した。</li> </ul>

3. 施設・設備の整備

(1) English PLAZAの拡充及びJapanese PLAZAの設置

実施事項：	日本人学生・留学生への実践的英語学修・日本語学修の機会拡大のため、English PLAZAの拡充及びJapanese PLAZAの設置に着手。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 言語コミュニケーション学部の定員増、国際関係学部の第1キャンパス移転に対応し、English PLAZAの拡充に着手した。</li> <li>● また、Eトラック学生の日本語学修実践の場としてJapanese PLAZAの設置に着手した。</li> </ul>

(2) 学習管理システム (Learning Management System : LMS) の導入

実施事項：	アクティブ・ラーニング強化のため、学習管理システムMoodleを導入。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成28年度本格導入を目指し、学習管理システム</li> </ul>

	<p>Moodleの試験的導入を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 若手教員を中心に導入準備組織を組成、活用事例等を共有し、FD活動に活用した。</li> </ul>
--	---

#### 4. 教育体系の改革

実施事項：	国際標準に合致した教育体系の抜本的見直し。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本学教育体系を国際標準に合致したものにすべく、教育体系の抜本的見直しを行い、平成28年度より導入することを決定した。</li> <li>● 具体的には、完全セメスター制実施、GPA体系の国際標準化と厳格適用、キャップ制の厳格化、ナンバリング体系の整備等である。</li> </ul>

## 2 - (2) 東京国際大学付属日本語学校

### I. 平成 27 年度の事業の概要

本校は、東京国際大学の付属日本語学校として昭和 62 年(1987 年)に開校し、全日制の「進学課程」「準備教育課程」を特色として、台湾、韓国、香港を中心に卒業生は 5,500 人を超え、その進学実績や卒業生の活躍振りにより、「大学進学に強い日本語学校」という評価を得てきた。

また、留学ニーズの多様化から、24 年度に半日制の「総合課程」を新たに設置し、ベトナムやフィリピンなど日系企業の進出が著しい国々からアルバイトをしながら学ぶ学生も受け入れ始めた。

創立以来、進学色が強い本校であったが、本校募集の中心である台湾からの入学者における大卒者の割合が半数を超え、日本での就職を希望する学生がここ数年増えつつある。このため、留学生対象の就職紹介業者と連携してその対応にあたっている。

### II. 事業項目

#### II-1 正規課程

課 程	A. 進学課程		B. 準備教育課程※		C. 総合課程	
授業時間	全日制(週 26 コマ)				半日制(週 20 コマ)	
入学時期	4 月 (1 年コース)				4 月(1 年、2 年コース)	
就学期間	10 月 (1.5 年コース)				10 月 (1.5 年コース)	
入学者数	4 月:108 名	180 名	4 月:12 名	18 名	4 月:17 名(1 年)	153 名
	10 月:72 名		10 月:6 名		4 月:41 名(2 年)	
	4 月:178 名、 10 月:173 名				計:351 名	

#### ※準備教育課程

フィリピンなど高校までの学習期間が 12 年未満の国の学生を対象とし、日本語のほか、英語、数学、理科等の基礎科目も学ぶことで日本の大学進学資格を得られる文部科学省認定の課程。



従来から本校募集の中心である台湾、香港、韓国においては、東日本大震災・放射能汚染報道、円高、領土問題等の影響により減少傾向にあったが、このところ円安が進んでいることに加え、ベトナム、フィリピンを中心に総合課程の学生の本格的な受入れを開始したことにより、入学者は24年度152名、25年度238名、26年度257名、27年度351名と増加傾向にある。

## II-2 短期聴講・プライベートレッスン

### 1. 短期聴講

- ・1ヶ月から6ヶ月の期間で実施。
- ・純然とした短期聴講もあるが、10月・4月の正規課程入学に先立ち、7月ないし1月から3ヶ月短期聴講する学生が大半(7月短期：25名、1月短期1名)である。
- ・こうした学生に対しては、年4回入学(4・7・10・1月)の大手他校に対抗するため、正規課程入学時の入学金(10万円)免除等により囲い込みを図っている。
- ・短期聴講生は、正規生クラスに編入するのが通常であるが、7月には日本語ゼロレベル学生向けの単独クラス(3ヶ月間)を2クラス設置した。

### 2. プライベートレッスン

個人から4名程度までを対象に、各人に合った個人レッスンを行う。

なお、今年度は前年度に引き続きオランダ大使館関係者、シンガポール大使館関係者に対し大使館での出張授業を行い、本校の教育レベルの高さをアピールした。

## II-3 短期研修プログラム

将来の学生募集に向けての広報活動として、海外の高校生や大学生を対象に、1週間から7週間の短期日本語研修プログラムを実施した。

	A. 台湾: 大学生短期	B. 台湾: 育達高校
1. 実施時期	7/6~8/21	7/13~7/24
2. 参加人数	5名	13名

内容は、日本語研修のみでなく、日本文化体験や地域見学も取り入れ、日本の魅力を感じさせるものとしている。

具体的には、日本文化体験としては、都内高校を訪問しての交流会の他、「浴衣着付け」や「盆踊り」「茶道」「和菓子作り体験」「防災体験」など。また地域見学としては「富士山」「鎌倉・江の島」「東京ディズニーシー」「神楽坂祭り」「リサイクルセンター」見学等を実施した。

特に台湾の高校から毎年要望の強い日本の高校生との交流については、東京都立小平高校に年度初め早々に依頼を行い、日台両国の高校生による親善交流を行うことができた。

上記のうち、A. は夏休みを使って日本語を勉強したい台湾人大学生を対象であり、

B.は親密校である台湾・育達高校とのプログラムであり、いずれも、入学者確保を主目的に例年実施している。

### Ⅲ. 進路

平成 27 年度卒業生は 211 名で、進路の内訳は以下のとおり。

種別	大学院	大学	専門学校	就職	日本語学校	帰国・その他	計
人数	1	65	89	8	9	39	211

大学合格実績は延べ人数で、国立大：3名、早慶上智：5名、MARCH：11名、東京国際：19名。

### Ⅳ. 主な実施施策

1. 平成 28 年 10 月施行に向けて以下のとおり学則変更の認可申請を東京都に行った。

- ①収容定員増： 420 名 ⇒ 460 名
- ②コース増設： 7 月コース（定員 40 名、1 年 9 ヶ月コース）を増設。
- ③課程名の変更： 非進学学生の増加もあって名称が実態にそぐわないため、以下のとおり変更。なお、準備教育課程は変更なし。  
     進学課程 ⇒ 日本語教育課程 A  
     総合課程 ⇒ 日本語教育課程 B
- ④学費改定： 人件費等の経費増を補うため、日本語教育課程 A の授業料を 4 月コース 4 万円、10 月コース 6 万円引上げ。

2. 学生増への対応

上記の他、4 階多目的ホールを可動壁で仕切り、短期研修や基礎科目授業などの人数が多い授業以外に、一般授業でも 2 教室として使用可能とした。また、学生増に伴い不足していた男子トイレを 4 階に増設した。

3. 就職希望者への対応

台湾やフィリピンなど、母国で大学を卒業し、日本国内で就職を希望する学生が増えてきたことに伴い、留学生向け就職斡旋業者を通じて 8 名が国内企業に就職した。

4. 新規採用日本語講師の待遇見直し

このところの入学者増に伴い、各日本語学校では日本語担当講師の不足が題となっており本校でも対応を求められていたが、優秀な講師確保を目的として待遇の見直しを行ったところ、28年4月期新規採用に当たっては多数の応募者があった。

## 2 - (3) 一橋学院早慶外語

### I. 平成27年度事業の概要

「2018年問題」に象徴されるように18歳人口の減少に伴う大学全入時代の到来により、大学入試の難易度は全般的に下がっているものの、難関大学においては入試難度・倍率が維持されている。全入時代だからこそ納得のいく受験結果を欲する難関志向の受験生は、大規模予備校でのマンモス教授法にはあきたらず、こうした高難度の入試に対応できるよう学力を伸ばし、普遍的な思考力の獲得を指導しうる少人数制予備校を選択する傾向にある。

少人数制教育を掲げる本校としても、徹底した面倒見の良さを実践する「難関大学に強い予備校」として最良の教育システムの確立を図り、「難関大学に行くなら一橋学院」という評判を受験界に定着させ、ブランド力のある早慶上智大・MARCHなどの難関私大文系志望者層を中心に、難関大志望者を安定的に獲得することが採るべき方向性となる。

クラス編成においては国立・私立・理系・文系を設置する総合予備校の形態を維持することで他の少人数予備校との差別化を図った。

また、2020年度から小学校で英語が「教科化」されることを見据え、新規市場として小学4年生～中学3年生の英語塾「リラリス」を開講した。

### II. 事業項目

#### II-1 高卒生コース

##### ・事業の概要

「いちばん行きたい大学へ」進学するために積極的に浪人を決断した高卒生の入学獲得に努めた。不本意な大学には入学せずに、納得いくまで勉強してみようという意欲ある受験生こそ本学院を支えてくれる基盤である。

設置クラスは、東大、一橋大、早大、慶大などの最難関大学を目指す「プライムクラス」からMARCHレベルの一般クラスまで、受験生のニーズに適合したクラス編成を行った。

また、少人数制のメリットを活かし、「チューター制」や「毎朝テスト」、「学力基幹別授業」「カスタマイズ授業」「入試研究ゼミ」「英語強化プログラム」といった特色を持たせ、志望大学合格まで一人ひとりに対して徹底して面倒をみるシステムをアピールし、入学者の獲得を図った。

## II-2 高校生コース

### ・事業の概要

新宿・池袋地区は、予備校・塾（高校生専門予備校も多い）の激戦区であり、生徒獲得競争の厳しい環境にある。本学院はその中間に位置する高田馬場に立地し、近隣の進学校、西武新宿線沿線在住の生徒を中心に入学者を獲得した。

設置クラスは、原則として、難関～基礎間で4レベル設定し、教科ごとに学力レベルや志望校に合わせた最適なクラス選択ができる編成を行った。また、高3生には東大・一橋大に的を絞った特別カリキュラムの「プライムゼミ」を設置し、他校との明確な差別化を図りつつ「大学受験の名門」としての存在をアピールした。

また、高3生コースにおいては「安心の合格保証制度」を前面に出し、生徒獲得を図った。「合格保証制度」は指定条件を満たして学習したにもかかわらず、万一、満足のできない入試結果になり、翌年度も一橋学院に在籍し再チャレンジする場合は、高卒コースのレギュラー授業料を全額免除することを約束する制度である。

## II-3 英語塾「リラリス」ー小学生コース・中学生コース

### ・事業の概要

2020年度から小学校で英語が「教科化」されることを見据え、国策のグローバル化人材の育成・大幅に変わる英語教育に対応するために新規に開講した。

「リラリス」とは、英語を使いこなすために必要な、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能の頭文字をとったもの。

これからのグローバル時代に対応できる英語力を身に付ける中で、コミュニケーション能力と創造性を養い、さらには大学受験につながる<本物の英語力>を提供する英語塾としてアピールした。

## II-4 夏期講習

### ・事業の概要

「夏を制する者は受験を征す」という言い方があるように、夏の過ごし方は受験の成否を大きく左右する。夏期講習期間は1ヵ月半にわたり、参加者の多い重要な公開行事であるが、近年、各高等学校で独自の夏期講習を自校生徒に対して実施するケースが多く、高校生獲得に影響を及ぼしてきている。こうした状況において、大学受験を専門とする予備校ならではの魅力のある講座編成を行い、高等学校での講習との差別化を図った。

## II-5 冬期講習・直前ゼミ

### ・事業の概要

冬期講習・直前ゼミは、高校3年生、高卒生にとっては入試直近の時期のため、大学入試センター試験・志望大学対策をメインにした講座を設置し、実践力～合格力を養成した。

また、高校1年、2年生の冬期講習参加者は新年度入学に直結するため早期から受験対策を図ることをアピールし獲得を図った。

## Ⅱ－6 リアル入試センター試験

### ・事業の概要

「大学入試センター試験」当日の夜、同一問題を高校2年生に体験してもらう企画である。現状の「センター試験」は、国公立大志望者のみならず、私大志望者も多数参加する一大試験となっている。この「リアル入試センター試験」により、2年生時点での学力を把握し、志望校までの距離を確認することができ、好評を博している。近年は他予備校でも実施するケースが多くなっているが、本校は他予備校に先駆けて本イベントを開始し、高校教員など教育関係者からの信頼も厚い。

新聞やインターネットで公表される試験問題を眺めるだけでは味わえない臨場感を体験するのがポイントとなっており、単に問題を解答するだけでなく、本学院講師が解説授業を行い、さらにはマークシートをコンピュータ処理して個人成績表も発行している。また、1週間後にも同様に実施することで、幅広い受験生の獲得に成功した。

1年後の本番への重要な指針となるため、高校2年生に好評を博しており、取りまとめでの参加を希望する高校が年々増加している。今後も高校とのパイプを太くするためにも重視すべき事業である。

## Ⅱ－7 2月スタートアップゼミ

### ・事業の概要

高校1年生・2年生を対象に、2月短期完結の講座を特別講習として設置。新学年に向けた学力の向上と定着を図る本ゼミは、同時に新学年生徒募集を開始する公開行事であり、高校生獲得のためには極めて重要なものである。「1講座無料招待」や抑えた受講料での「定額制」を用意することで、受講し易い環境を整え、「リアル入試センター試験」で本学院に関心を持った高校生が、さらに本学院で継続的に学習を進めていけるように企画した。そのため、春イベントや春期講習への連結も考慮した設置講座・広報活動を行った。

## Ⅱ－8 春期講習

### ・事業の概要

高等学校の春休みを利用して、新学年の準備のために開催される講習会である。予備校としては、4月新学期入学生の確保のための前哨戦とも捉えられる。期間が短いため新高1・高2・高3生に向けたコンパクトな講座（160分×2日＝320分）を設置し、短期間で高校生に本学院の授業の質の高さを実感してもらえるように企画した。また、カリキュラムは新学期授業に連結させ、新学期へ継続受講を促した。

## Ⅱ－9 大学でのリメディアル教育

### ・事業の概要

近年、大学生の基礎学力を補強するために、大学がリメディアル教育として補習授業を行うことが多くなってきた。こうした状況の下、本学院でも以下の講師派遣によるリメディアル教育を行った。

<内容>

- ・補習教科 数学、国語表現
- ・授業回数 数学 16回(1回90分) 国語表現 32回(1回90分)